

千葉県八千代市

白幡前遺跡 i 地点

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和4年度

株式会社 Assure Dream
八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が令和3年度及び令和4年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和4年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、宅地造成に伴うもので、事業者である株式会社Assure Dreamの委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、白幡前遺跡、所在地は千葉県八千代市萱田字池ノ台2243番2他である。
4. 調査及び整理は、第1次本調査を森竜哉が、それ以外の調査及び整理を宮下聡史が担当した。

確認調査	期間	令和3年5月24日～令和3年6月3日	面積	149.9㎡/1,663.57㎡
第1次本調査	期間	令和3年9月1日～令和3年10月28日	面積	320㎡
第2次本調査	期間	令和4年5月27日～令和4年7月29日	面積	296.32㎡
本整理	期間	令和4年8月1日～令和5年3月31日		
5. 遺構No.は、数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。

竪穴建物跡	D	土坑	P	溝跡	M	かく乱	K
-------	---	----	---	----	---	-----	---
6. 遺構・遺物の縮尺は、原則として下記のとおりである。

[遺構]	竪穴建物跡・溝跡	1/60	土坑	1/30	[遺物]	土器	1/3	拓本	1/2
------	----------	------	----	------	------	----	-----	----	-----
7. 遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器を表し、中軸線の両脇の空きは、復元実測を表す。
8. 参考文献は第3章末にある。
9. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
10. 本書の図版作成、遺物の撮影、執筆・編集を、宮下が行い、遺構・遺物のトレースを伊藤衣莉加、大友梢が行った。



八千代市の位置



白幡前遺跡の位置

(国土地理院発行5万分の1地形図に加筆・編集)

目 次

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の概要…………… 1

第3節 白幡前遺跡の概要…………… 2

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代…………… 5

第2節 弥生時代…………… 8

第3節 奈良・平安時代…………… 8

第4節 中・近世…………… 12

第5節 遺構外出土遺物…………… 14

第3章 成果と課題…………… 14

写真図版…………… 15

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 白幡前遺跡調査地点…………… 3

第2図 白幡前遺跡周辺の遺跡…………… 3

第3図 白幡前遺跡 i 地点遺構配置図…………… 4

第4図 縄文時代遺構 (1) …… 5

第5図 縄文時代遺構 (2) …… 6

第6図 縄文時代遺構 (3)・出土遺物 …… 7

第7図 弥生時代遺構・出土遺物…………… 8

第8図 奈良・平安時代遺構 (1) …… 10

第9図 奈良・平安時代遺構 (2)・

出土遺物 (1) …… 11

第10図 奈良・平安時代出土遺物 (2) …… 12

第11図 中・近世遺構・出土遺物…………… 13

写 真 図 版 目 次

図版1 遺構1 (調査前全景・I区全景・基本層序・01P・01M~03M・02P・II区全景) …… 15

図版2 遺構2 (03P~09P) …… 16

図版3 遺物3 (Ⅲ区全景・基本層序・01D・05M・11P・04M・13P) …… 17

図版4 遺物4・遺物1 (IV区全景・05M・14P・12P・縄文時代出土遺物) …… 18

図版5 遺物2 (01D・02M・05M・04M出土遺物) …… 19

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

令和3年4月21日付で、株式会社Assure Dream 代表取締役 濱田孝典（以下、事業者）から萱田字池ノ台2243番2他の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、白幡前遺跡の範囲内であることから、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要であることと、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計1663.57㎡について協議を行った。その結果、事業者は工事を進めたいとのことであり、同年4月21日付で事業者から法第93条に基づく届出が提出されたことから、市教委は同年5月24日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、令和3年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。白幡前遺跡i地点として対象面積1663.57㎡のうち149.9㎡を調査した。その結果、発掘調査により縄文時代の陥穴1基、竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代土坑2基、竪穴建物跡5棟を検出した。

本調査 確認調査の結果、634.32㎡について協議範囲とし、本調査実施に向けて協議を重ねた。協議の結果、18㎡を保存協議とし、工期等の都合上、共同住宅建設部分及び、敷地への進入路部分を第1次調査として令和3年度中に、残りを第2次調査として令和4年度事業とすることとした。市教委は令和3年6月21日付で調査の見積りを事業者に提示し、事業者からも同年7月30日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は同年8月12日付でこれを受託した。令和3年8月20日付で市と事業者間で第1次本調査の委託契約を締結した。同年9月1日に市教委が本調査を開始した。第2次調査及び整理は令和4年5月6日に委託契約を締結し、同年5月27日に本調査を開始した。

第2節 調査の概要

第1次本調査 協議範囲の内、共同住宅建設予定地及び進入路部分320㎡について調査を行った。表土の掘削、埋め戻しは重機を使用し、適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。調査区内は深いところで2m程の埋土があり、土置き場確保のため、調査区南側の進入路部分（Ⅰ区）を先に調査した後埋戻し、北側の共同住宅部分（Ⅱ区）の調査を行った。

調査経過は、9月1日機材搬入、環境整備、調査前状況写真撮影。9月6日から7日にかけて進入路部分の表土掘削。遺構確定後9月8日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い、随時写真撮影等により記録を行った。10月5日に進入路部分の埋戻しを行い翌6日から7日に北側の共同住宅建設予定地部分の表土掘削を行った。前半同様に調査を行い、10月28日に埋戻し、機材を撤収し、調査を終了した。

第2次本調査 協議範囲の内、296.32㎡について調査を行った。調査方法については第1次同様で、土置き場確保のため調査区を東西に2分割し調査を行った。表土の掘削、埋め戻しは重機を使用した。

調査経過は、5月23日より機材搬入、環境整備、調査前状況写真撮影等の準備を行い、5月27日から31日にかけて調査区西側（Ⅲ区）の表土掘削を行った。遺構確定後6月6日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い、随時写真撮影等により記録を行った。6月30日に調査区西側の埋戻しを行い、7月4日から5日にかけて調査区東側（Ⅳ区）の表土掘削を行った。遺構確定後7月7日より土坑等の遺構調査に移行し、前半同様随時記録を取りながら調査を行った。7月25日に埋戻しを行い、29日に撤収を完了した。

第3節 白幡前遺跡の概要

遺跡の立地 白幡前遺跡は、市域の中央、ゆりのき台及び萱田地区にある。南北を新川から延びる2本の谷津に挟まれた標高12mから24mの台地及び河岸段丘上に位置する。調査地点は遺跡の南西端に位置し、谷津を南に臨む台地上緩斜面、標高20m前後に立地する。

これまでの調査 萱田地区の遺跡については、昭和50（1975）年11月～12月に萱田地区特定土地区画整理事業（現ゆりのき台）の一環として事前準備の分布調査が財団法人千葉県文化財センター（現公益財団法人千葉県教育振興財団）によって実施され、遺跡分布状況が確認された。昭和54（1979）年には現在のゆりのき台の一角が萱田遺跡として認識された。昭和58（1983）年の八千代市教育委員会（以下市教委）による埋蔵文化財包蔵地所在調査報告の時には、萱田遺跡は分割されており、現在の白幡前遺跡の内、権現道より西側を白幡前遺跡、東側を上の方遺跡と呼称していた。

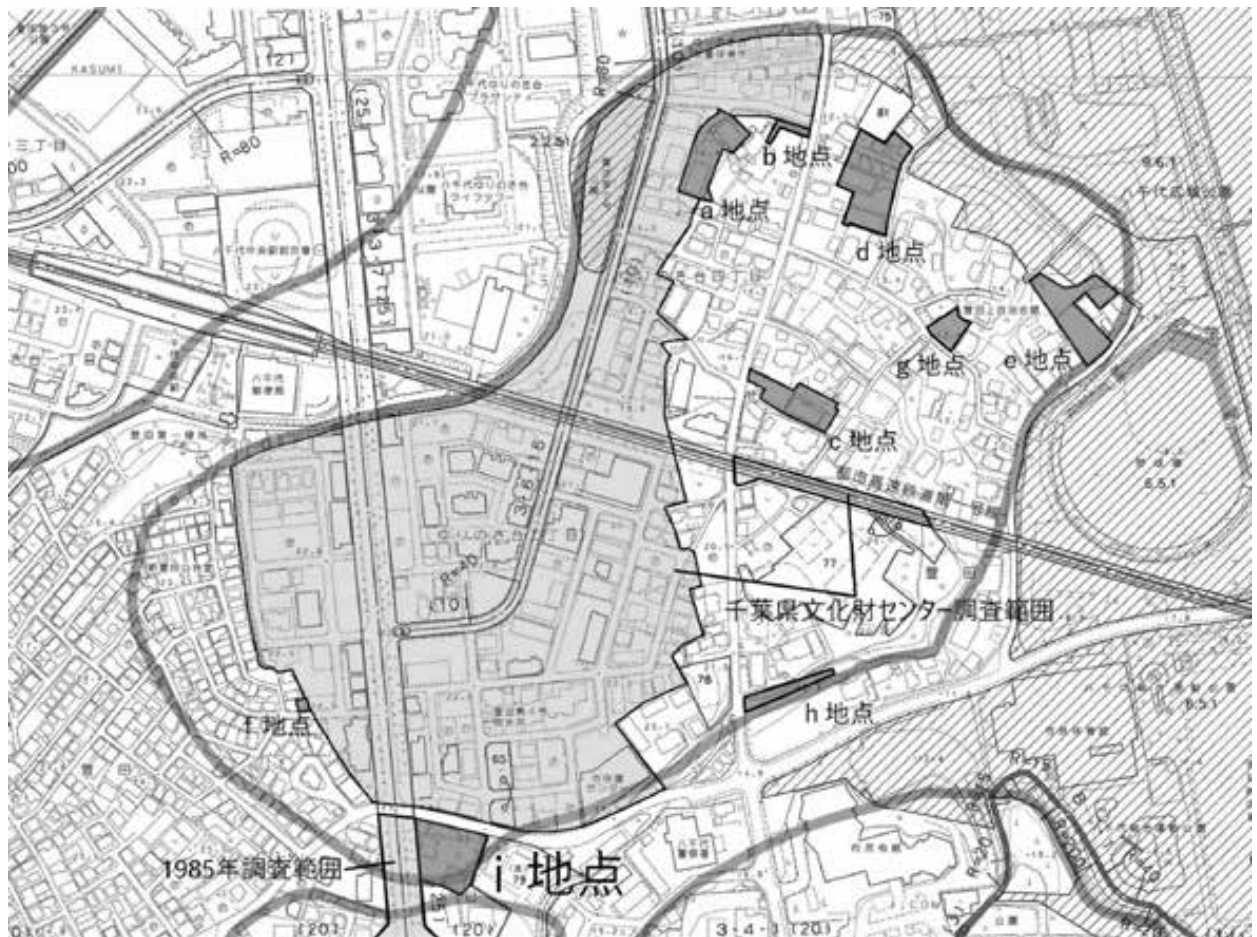
これらと前後して、昭和54年8月から昭和63（1988）年9月にかけて、萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い、白幡前遺跡の内94,026㎡が（財）千葉県文化財センターにより調査が行われた。その結果、縄文時代を除く旧石器時代～平安時代の遺構・遺物が多数検出され、特に奈良・平安時代は竪穴建物跡279軒、掘立柱建物跡150棟、瓦塔などの仏教関連の遺物や多数の墨書土器など豊富な成果であった。この内、人面と「丈部人足召□」と書かれた墨書土器は八千代市指定文化財となっている。

上の台遺跡では、平成2（1990）年12月～翌年8月に東葉高速鉄道の建設に伴い1,935㎡が（財）千葉県文化財センターにより調査され、奈良・平安時代の竪穴建物跡17軒などが検出された。

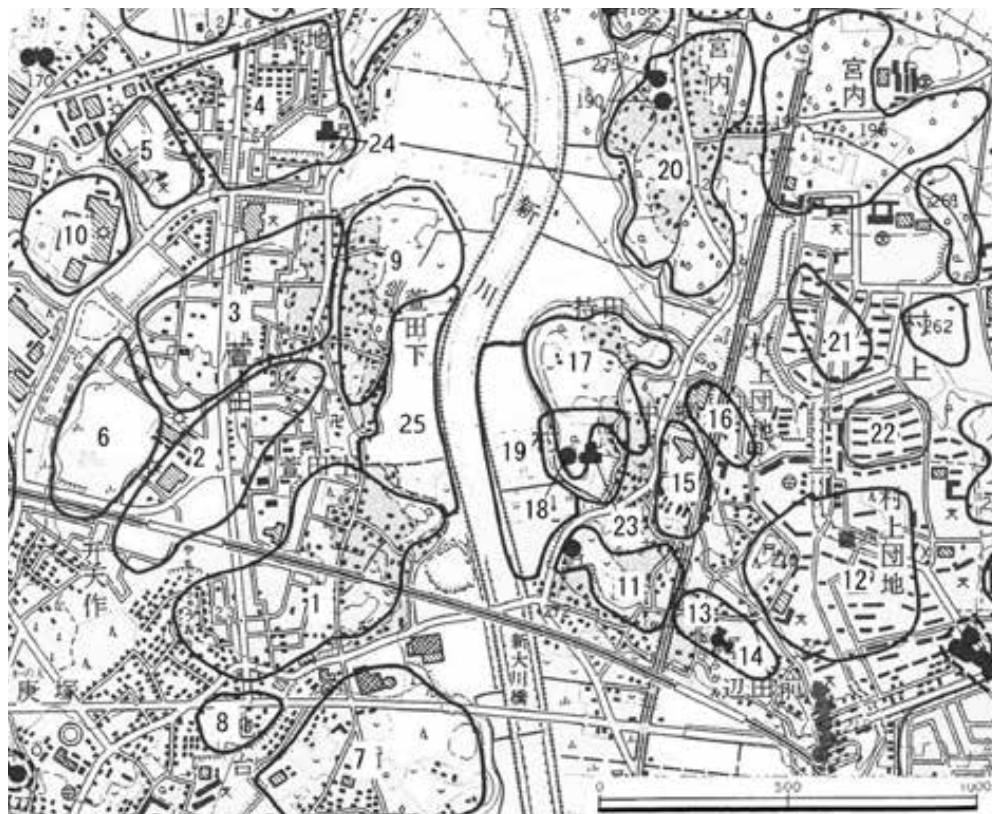
平成9（1997）年に埋蔵文化財分布地図の改訂に伴い上の台遺跡は白幡前遺跡に統合された。

その後市教委による調査として平成13（2001）年に遺跡北部でa地点1,498㎡、b地点214㎡が調査され、奈良・平安時代の竪穴建物跡19軒、掘立柱建物跡6棟などが検出された。平成20（2008）年には遺跡中央部でc地点311㎡が調査され、奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒、溝跡1条などが検出された。平成25（2012）年には遺跡北部でd地点が調査され、縄文時代の竪穴建物跡2軒、奈良・平安時代の竪穴建物跡5軒・溝跡1条などが確認された。平成26（2013）年、遺跡東部の新川低位段丘面上でe地点の調査が行われ、中近世の掘立柱建物跡1棟や台地整形区画1基、溝跡12条のほか多数のピットなどが検出されている。平成31年（2019）年に遺跡中央南端部の崖際でh地点の調査が行われ、縄文時代の竪穴建物跡1棟と、古墳時代の竪穴建物跡2棟、奈良・平安時代の溝や中近世の土坑、道状遺構が検出されている。また、昭和60（1985）年に池の台遺跡として、現在の白幡前遺跡と池の台遺跡にまたがり、今回の調査区西側の都市計画道路の建設に伴い調査が行われ、白幡前遺跡側では奈良・平安時代の竪穴建物跡2棟と溝跡1条が確認されている。

周辺の遺跡 前述した萱田地区特定土地区画整理事業において、現在のゆりのき台の範囲にかかる白幡前遺跡・井戸向遺跡・北海道遺跡・権現後遺跡・坊山遺跡・ヲサル山遺跡の6遺跡が大規模に調査され、旧石器時代～中世に至る遺構・遺物が多数確認されている。本遺跡の南には弥生時代後期～古墳時代中期を主体とする川崎山遺跡や池の台遺跡があり、新川の対岸にある村上地区には、奈良・平安時代の集落跡として知られる村上込の内遺跡を始め、浅間内遺跡、殿内遺跡など、奈良・平安時代を中心に各時代の遺構・遺物が多数確認され、これらの遺跡が所在する新川上流および辺田前・沖塚前低地に望む一角は遺跡の密集地として認識される。

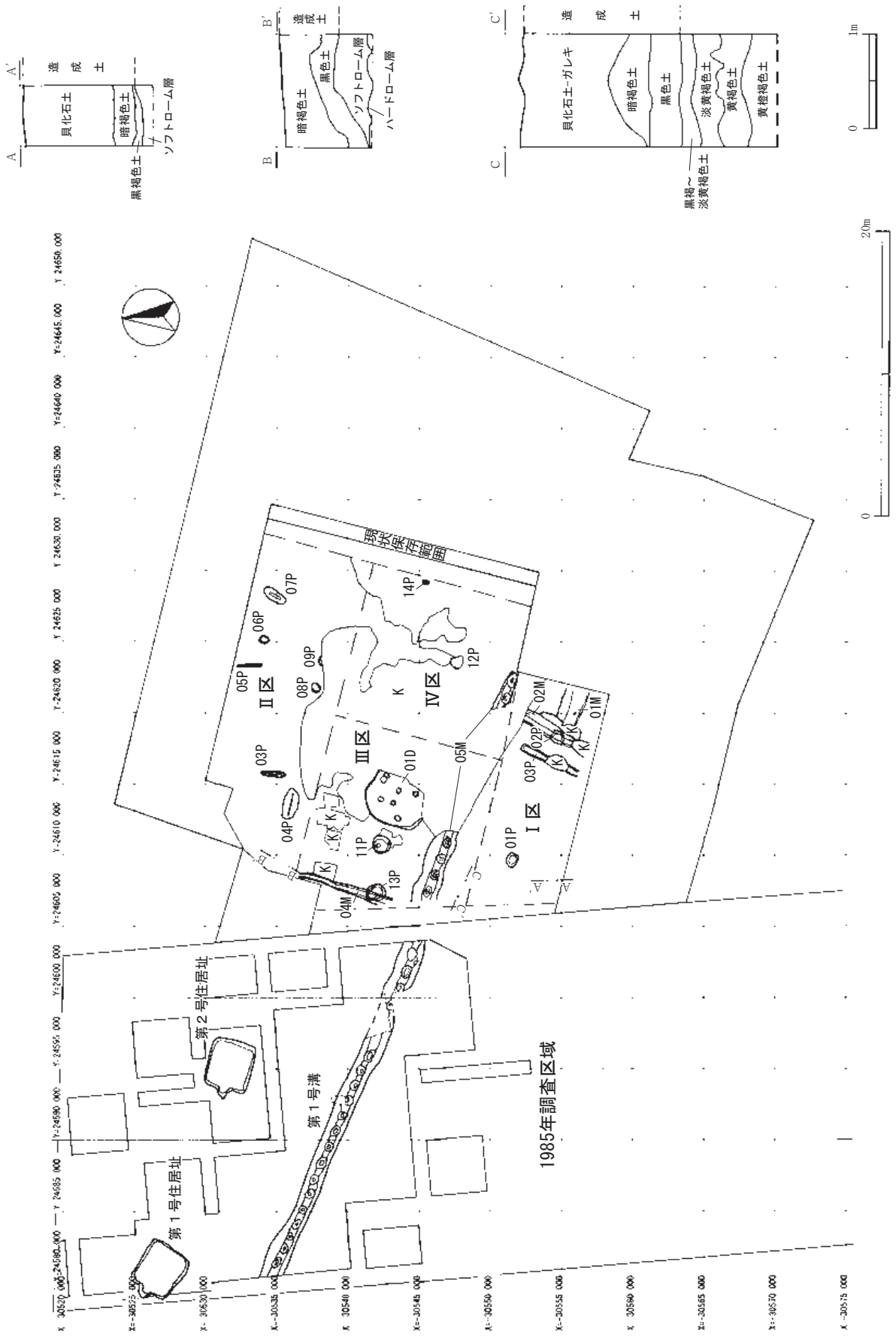


第1図 白幡前遺跡調査地点



- 1 白幡前遺跡
- 2 井戸向遺跡
- 3 北海道遺跡
- 4 権現後遺跡
- 5 ヲサル山遺跡
- 6 坊山遺跡
- 7 川崎山遺跡
- 8 池の台遺跡
- 9 南海道遺跡
- 10 ヲサル山南遺跡
- 11 浅間内遺跡
- 12 村上込の内遺跡
- 13 白筋遺跡
- 14 根上神社古墳
- 15 殿内遺跡
- 16 境作遺跡
- 17 持田遺跡
- 18 正覚院塚
- 19 浅間下遺跡
- 20 村上宮内遺跡
- 21 村上向原遺跡
- 22 名主山遺跡
- 23 正覚院館跡
- 24 飯綱砦跡遺跡
- 25 志津根遺跡

第2図 白幡前遺跡周辺の遺跡



第3図 白幡前遺跡i地点遺構配置図

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代

今回の調査において、縄文時代の陥穴4基を検出した。4基とも遺物の出土は見られなかった。また、I区確認面より縄文土器が出土しているため、ここで併せて報告する。

03P

位置 調査区北側西寄り 確認面 ハードローム層 長軸方向 N-5.5°-W 規模・平面形 1.7m×0.35m×0.75mの楕円形 壁 V字状に立ち上がる。南側は下部が袋状に広がる。床面 平坦で南側に下がる 覆土 5層に分層される。 所見 覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

04P

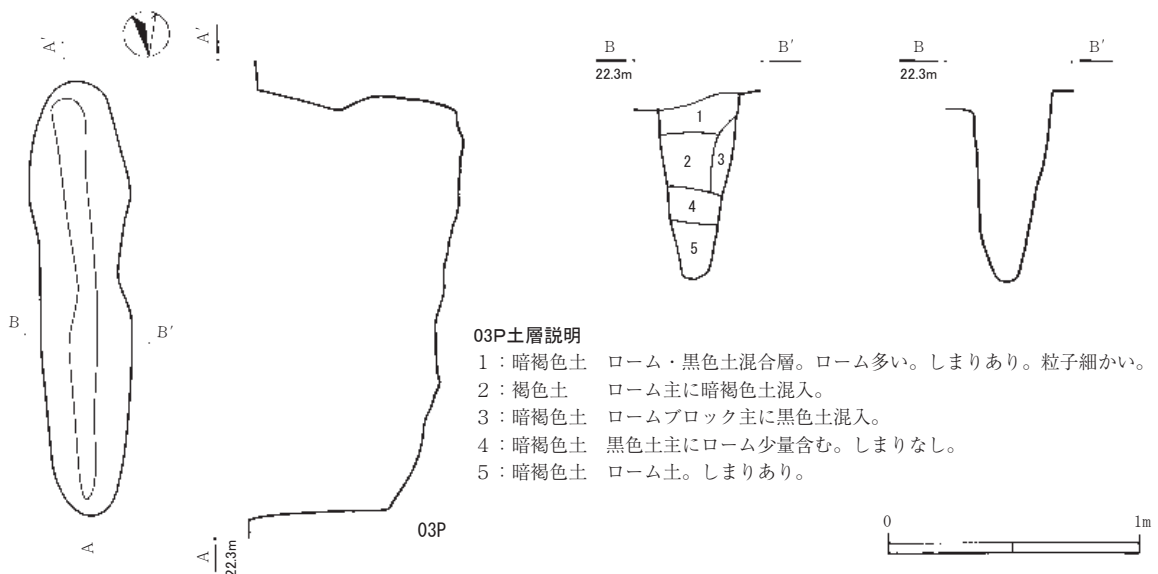
位置 調査区北側西寄り 確認面 ハードローム層 長軸方向 N-77°-E 規模・平面形 2.16m×10.5m×2.0m 壁 V字状に立ち上がる。南側は下部が袋状に膨らむ。床面 南側に下がる。 覆土 7層に分類される。 所見 覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

05P

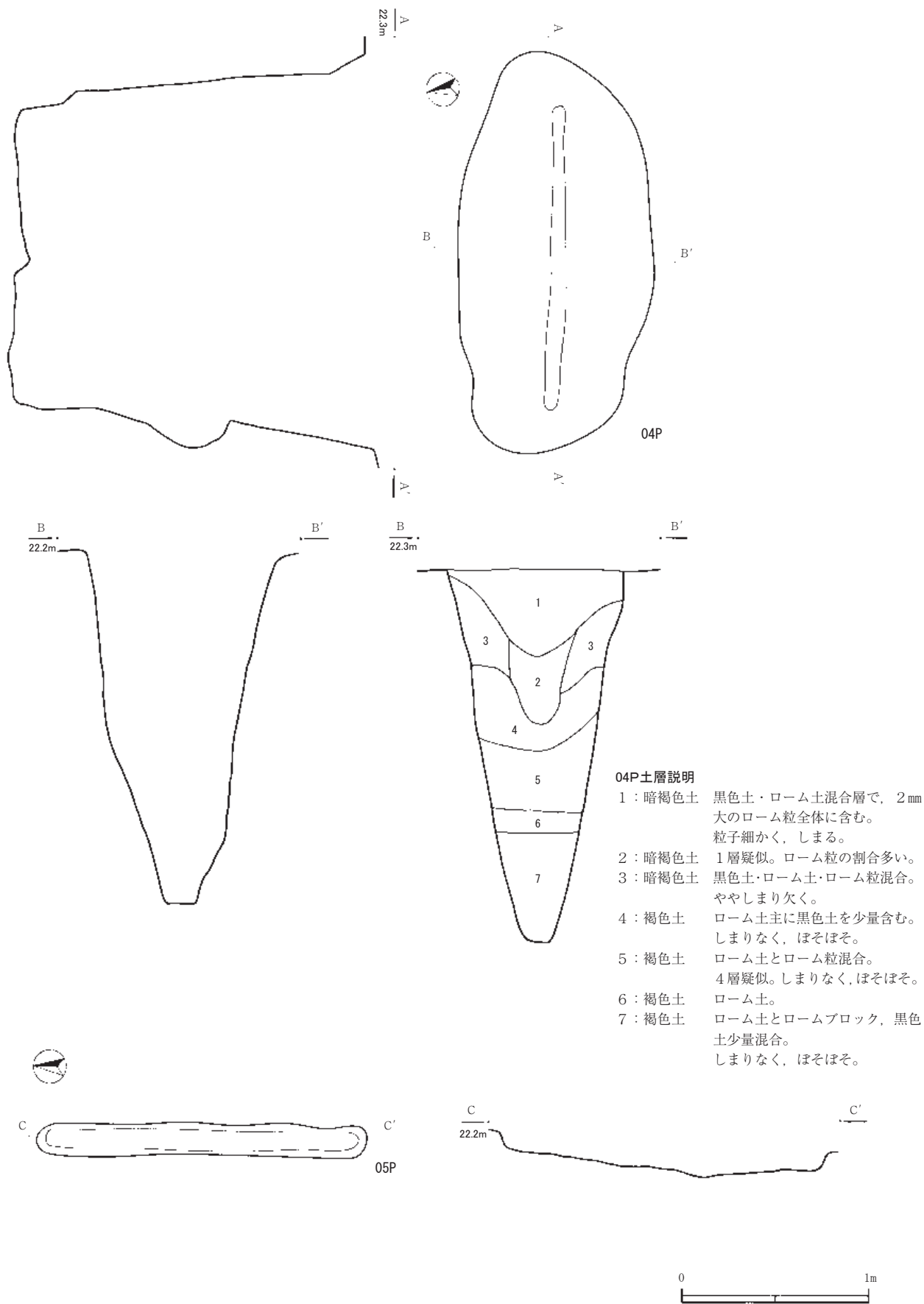
位置 調査区北側東寄り 確認面 ハードローム層 長軸方向 N-2°-E 規模・平面形 1.76m×0.17m×0.18m 壁 急角度で立ち上がる。床面 南側に下がる。 所見 覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。

07P

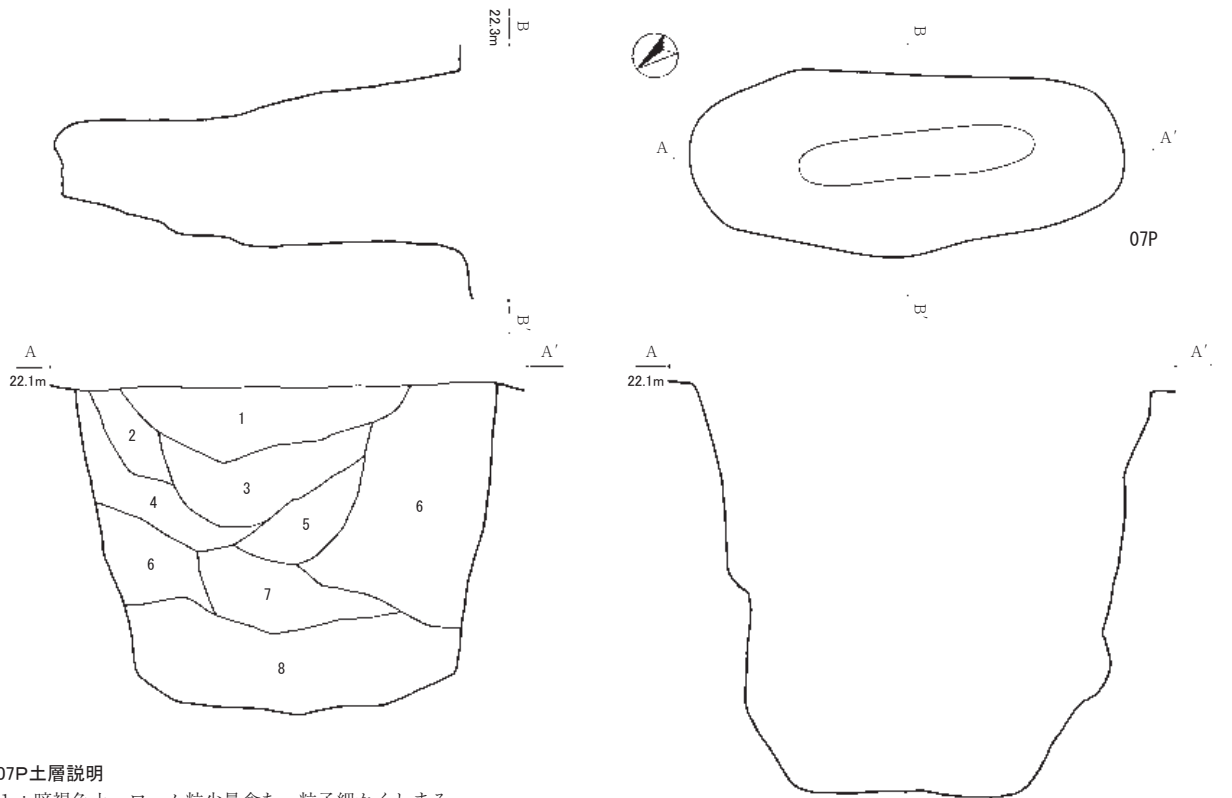
位置 調査区北東 確認面 ハードローム層 長軸方向 N-32°-W 規模・平面形 17.3m×0.73m×1.29m 壁 急角度で立ち上がる。立ち上がり部分は袋状に広がる。床面 平坦で、南側に下がる。 覆土 8層に分類される。 所見 覆土や遺構の形態などから縄文時代の陥穴と考えられる。



第4図 縄文時代遺構（1）

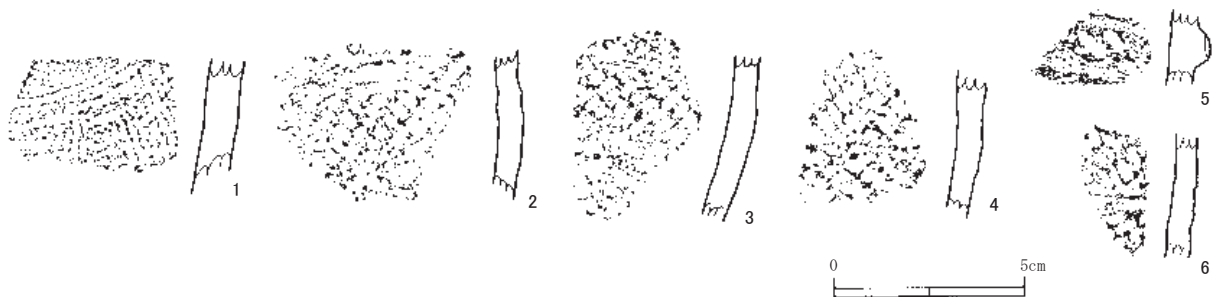


第5図 縄文時代遺構(2)



07P土層説明

- 1：暗褐色土 ローム粒少量含む。粒子細かくしまる。
- 2：褐色土 ローム土，ロームブロック。しまる。
- 3：暗褐色土 1層疑似。黒色土やや多い。粒子細かく，しまる。
- 4：暗褐色土 ローム粒3mm大含む。ややしまり欠く。
- 5：暗褐色土 ローム粒に黒色土少量含む。粒子細かく，しまる。
- 6：褐色土 ローム，黒色土混合。粒子荒く，しまり欠く
- 7：褐色土 ローム土主体。しまる。
- 8：褐色土 ローム土に5～7mm大ロームブロック混合。しまり欠く。粒子荒い。



第6図 縄文時代遺構（3）・出土遺物

縄文時代遺物観察表

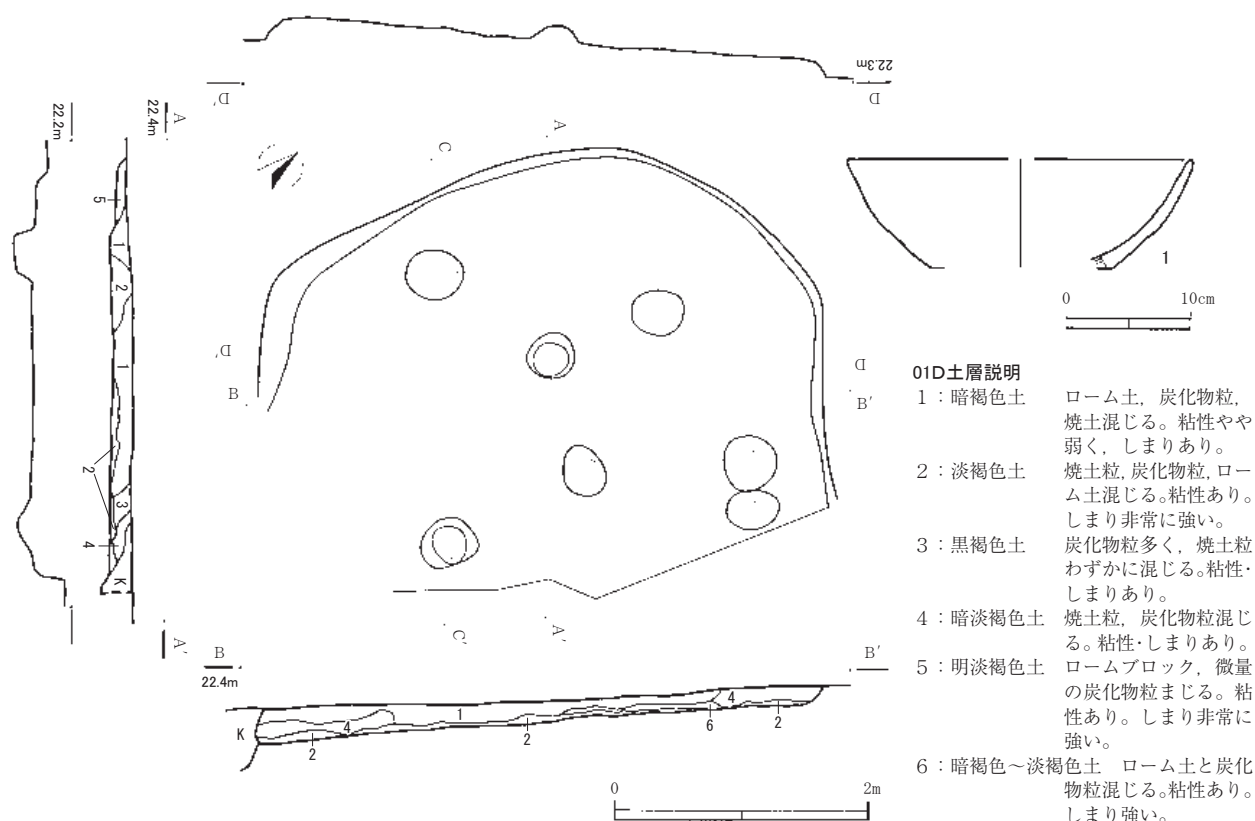
遺構	器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎土等	調整・文様等
			器高	口径	底径			
I区確認面	1 深鉢	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石，石英	貝殻充填文
	2 深鉢	胴部	—	—	—	黒褐色	長石，石英	刺突文，縄文
	3 深鉢	胴部	—	—	—	黒褐色	長石，石英	羽状縄文
	4 深鉢	胴部	—	—	—	外面：暗褐色 内面：黒褐色	長石，石英	羽状縄文
	5 深鉢	胴部	—	—	—	暗淡褐色	長石，赤色鈹物	隆帯にキザミ
	6 深鉢	胴部	—	—	—	外面：黒褐色 内面：暗淡褐色	長石	縄文，刺突文

第2節 弥生時代

今回の調査において、弥生時代の竪穴建物跡1棟を検出した。

01D

位置 調査区中央西寄り **確認面** ハードローム層 **長軸方向** N-29°-Wで東に振れる。 **規模・平面形** 約4.7m×3.5m以上×0.2mの不整形な俵型。床面に小ピット7基を有する。主柱穴は不明 **壁** わずかな立ち上がりが残るのみで、形状は不明 **床面** ハードローム層を掘り込み地床とする。 **覆土** 6層に分類。遺構上部は削平されたと考えられ、覆土は非常に薄い。 **遺物出土状態** 覆土中より奈良・平安時代の土師器が出土しているが、カクラン等により当遺構に伴う遺物ではないと考えられる。 **所見** 遺構の形態などから弥生時代の竪穴建物跡と考えられる。



第7図 弥生時代遺構・出土遺物

01D遺物観察表

	器種等	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 杯	口縁～底部	(7.2)	(13.6)	—	外面: 暗橙褐色 内面: 黒色	長石, 石英, 雲母	内外面ともミガキ

第3節 奈良・平安時代

今回の調査において、奈良・平安時代の土坑7基と溝跡4条を検出した。

01P

位置 調査区南側西寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.95m×0.8m×0.3m 東西にやや長い円形 壁 緩やかに立ち上がる 底面 ほぼ平坦 遺物 なし 所見 覆土や形態から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

02P

位置 調査区南側東寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.95m×0.8m×0.3m 切り合い 0.2Mを切る 壁 緩やかに立ち上がる 底面 ほぼ平坦 覆土 暗褐色～黒褐色土が堆積する。 遺物 なし 所見 覆土や形態から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

06P

位置 調査区北側東寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.7m×0.55m×0.15m ほぼ円形 壁 やや角度を取って立ち上がる。 底面 ほぼ平坦で、南側がやや深くなる 覆土 2層に分類される。 遺物 土師器片1点が出土した。 所見 覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

08P

位置 調査区北側中央 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.7m×0.6m×0.1m 壁 緩やかに立ち上がる 底面 ほぼ平坦 覆土 黒色土とローム土混じりの土が堆積する。 遺物 土師器2点出土 所見 覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

09P

位置 調査区北側東寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 直径0.7m以上、深さ0.12mの円形と考えられる。南側をカクランにより切られる。 壁 緩やかに立ち上がる。 底面 ほぼ平坦 遺物 なし 所見 覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

11P

位置 調査区中央西寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 直径約1.25m×深さ約0.2mの不整形な円形。底面に木の根による小穴あり。 壁 ゆるやかに立ち上がる 底面 ほぼ平坦 覆土 6層に分類される。 遺物 なし 所見 覆土や遺構の形態等から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

14P

位置 調査区中央東 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.4m×0.3m×0.3mの不整形な楕円形。 壁 比較的急角度で立ち上がる。 覆土 4層に分類される。 遺物 なし 所見 覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の柱穴と考えられる。

01M

位置 調査区南東。東西方向に延びる。 確認面 ハードローム層 規模・平面形 カクランにより幅不明。底面に浅い溝が掘り込まれる。 壁 緩やかに立ち上がる。南側は立ち上がり不明。 覆土 5層に分類した。暗褐色から黒褐色土で粒子細かくしまっている。 遺物出土状態 覆土中より土師器数点が出土した。 所見 覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

02M

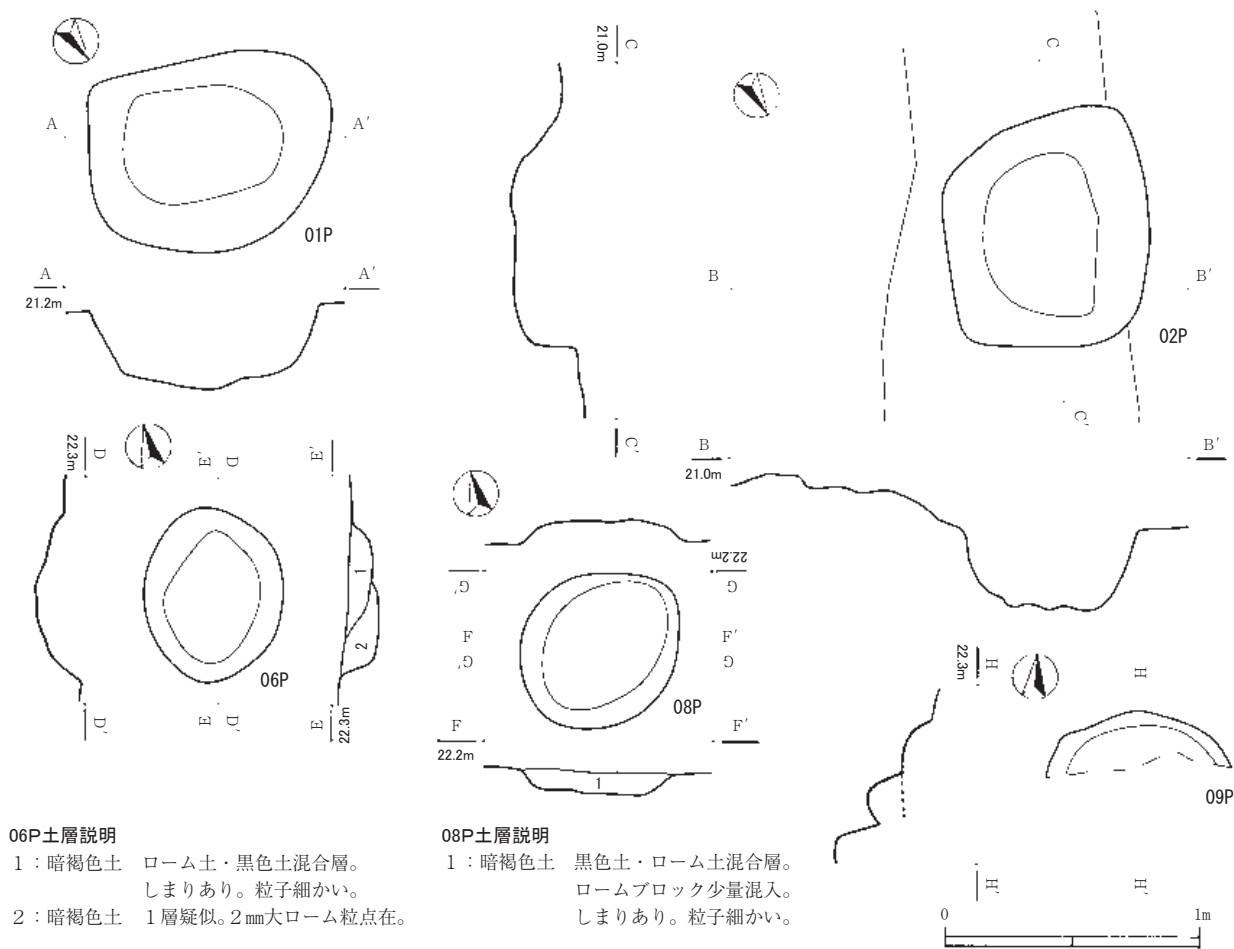
位置 調査区南側東寄り。南北方向に延びる。 確認面 ハードローム層 規模・平面形 4m以上×1m×0.2m 切り合い 02Pに切られる。 壁 急角度で立ち上がる。東壁は2段の立ち上がりがある。 遺物出土状態 覆土中より土師器1点が出土した。 所見 遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

03M

位置 調査区南側東寄り。南北方向に延びる。 確認面 ハードローム層 規模・平面形 4.5m×0.6m×0.16m 北側で立ち上がる。 壁 緩やかに立ち上がる。 遺物出土状態 遺物なし。 所見 遺構の形態などから奈良・平安時代の溝跡と考えられる。

05M

位置 調査区中央南寄り。東西方向に延びる。 確認面 ハードローム層 規模・平面形 17m以上×1.7m×0.8mで底面にほぼ0.5m間隔で並ぶ小ピットを有する。東側はカクランが深く、一部しか検出できなかった。 壁 V字状に立ち上がる。 覆土 7層に分類した。 遺物出土状態 覆土中から縄文土器、弥生土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器が見つかった。 所見 検出された位置や遺構の形態等から奈良・平安時代の溝跡と考えられる。位置関係と遺構の形態から調査区西側に隣接する都市計画道路建設に伴い、池の台遺跡として調査された際に検出された第1号溝の延長部分である。



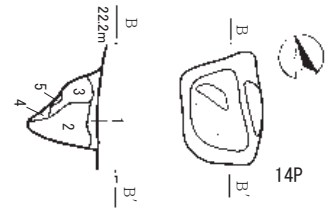
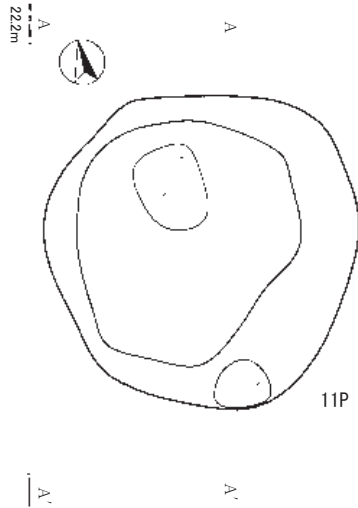
06P土層説明
 1：暗褐色土 ローム土・黒色土混合層。しまりあり。粒子細かい。
 2：暗褐色土 1層疑似。2mm大ローム粒点在。

08P土層説明
 1：暗褐色土 黒色土・ローム土混合層。ロームブロック少量混入。しまりあり。粒子細かい。

第8図 奈良・平安時代遺構（1）

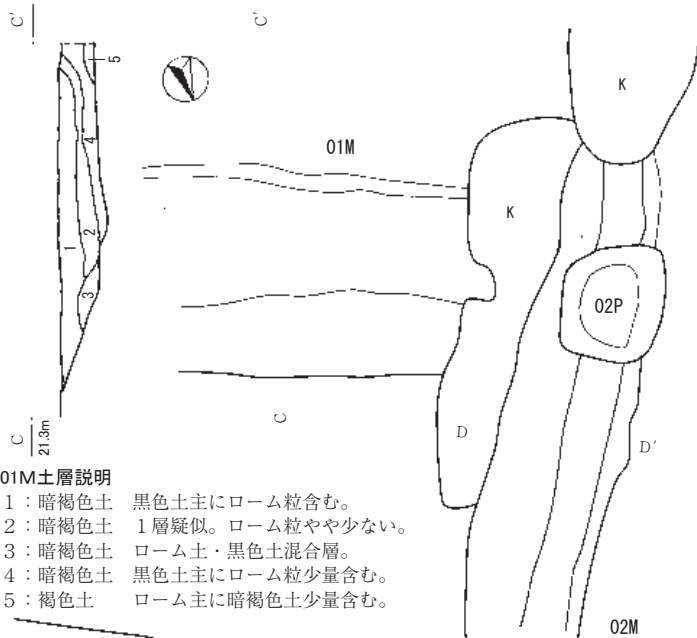
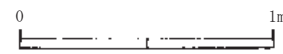
11P土層説明

- 1: 暗褐色土
粘性・しまりあり。
- 2: 黒褐色土
焼土と少量の炭化物混じる。
粘性・しまりあり。
- 3: 黒色土
粘性・しまりあり。
- 4: 淡暗褐色土
炭化物含む。焼土粒多く含む。
粘性あり。しまりやや弱い。
- 5: 淡褐色土
ローム土まじる。
粘性・しまりあり。
- 6: 褐色土
ハードローム層。
粘性・しまりあり。
- 7: 褐色～暗褐色土
ロームブロック含む。
粘性・しまりあり。



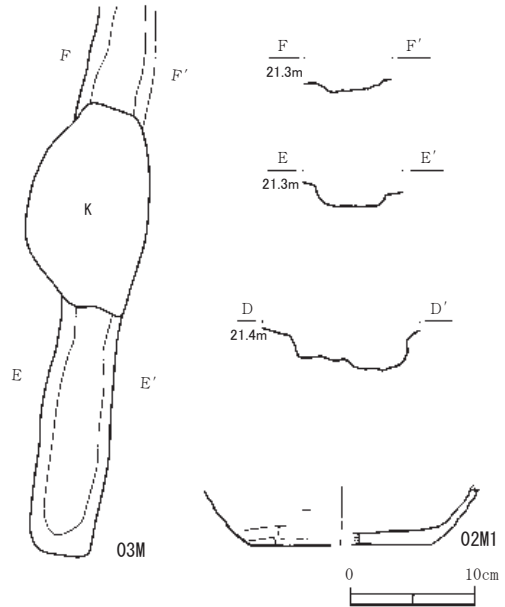
14P土層説明

- 1: 暗褐色土 焼土含む。粘性・しまりあり。
- 2: 淡暗褐色土 ローム粒、微量の炭化物粒含む。
粘性・しまりあり。
- 3: 淡褐色土 焼土、少量の炭化物含む。
粘性・しまりあり。
- 4: やや暗い淡褐色土 ローム土混じる。
粘性・しまりあり。
- 5: 黄褐色土 ハードローム層



01M土層説明

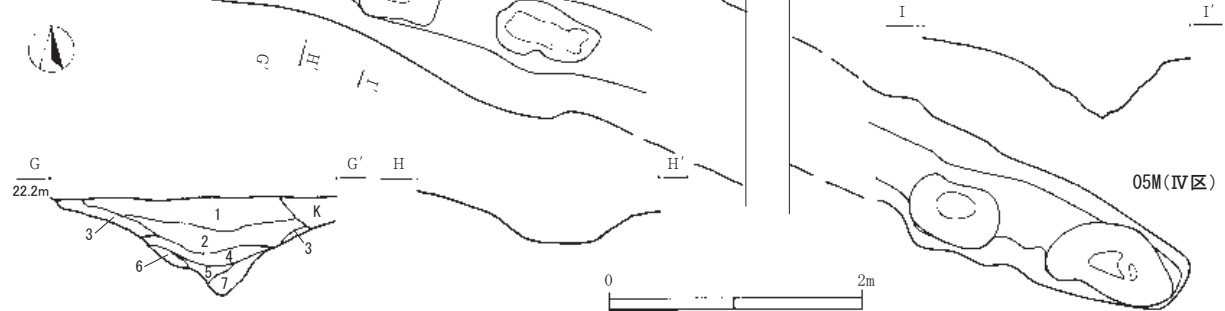
- 1: 暗褐色土 黒色土主にローム粒含む。
- 2: 暗褐色土 1層疑似。ローム粒やや少ない。
- 3: 暗褐色土 ローム土・黒色土混合層。
- 4: 暗褐色土 黒色土主にローム粒少量含む。
- 5: 褐色土 ローム主に暗褐色土少量含む。



05M土層説明

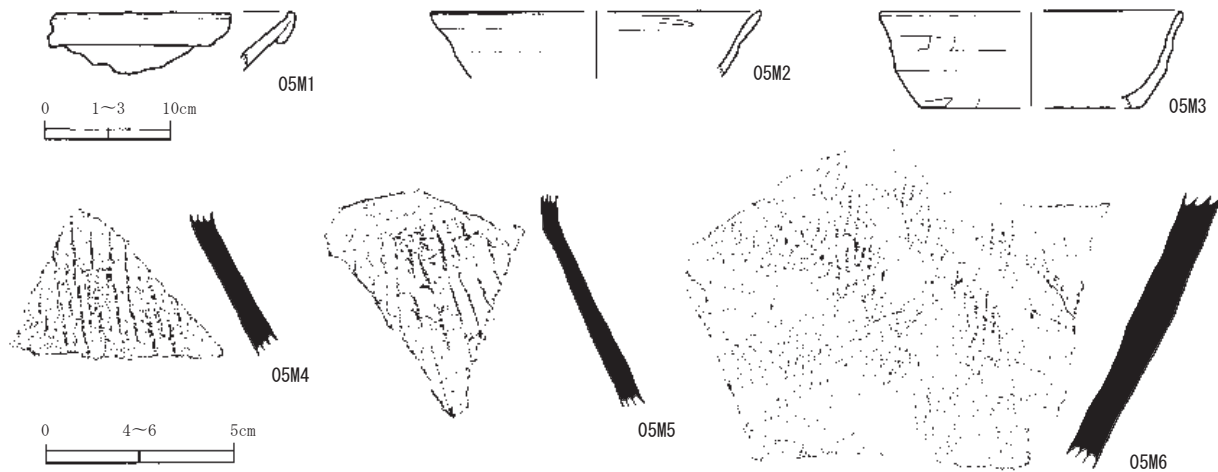
- 1: 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒混じる。粘性・しまりあり。
- 2: 暗褐色土 1層よりもやや明るい色。粘性・しまりあり。
- 3: 淡暗褐色土 ローム粒混じる。粘性・しまりあり
- 4: 黒褐色土 焼土粒、炭化物混じる。粘性・しまりあり。
- 5: 暗褐色土 焼土・炭化物混じる。粘性・しまりあり。
- 6: 淡暗褐色土 ロームブロック混じる。粘性・しまりあり。
- 7: 淡暗褐色土 焼土粒多く含む。炭化物混じる。粘性あり。
しまりやや弱い。

05M(Ⅲ区)



05M(Ⅳ区)

第9図 奈良・平安時代遺構(2)・出土遺物(1)



第10図 奈良・平安時代出土遺物（2）

0 2 M・0 5 M遺物観察表

	器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高 (残存高)	口径	底径			
0 2 M 1	土師器 坏	胴部～底部	2.3 (残存高)	—	(7.0)	暗淡褐色	長石, 石英 褐色鋳物	内外面ともヨコナデ。 外面底部は糸切り後ヘラナデ。
0 5 M 1	弥生土器 壺	口縁部	—	—	—	黒色	長石, 石英	折り返し口縁。内外面ともヨコナデ。
0 5 M 2	土師器 坏	口縁～胴部	2.6 (残存高)	(13.0)	—	淡褐色	長石, 石英	外面ヘラナデ。内面ミガキ調整。
0 5 M 3	土師器 坏	口縁～底部	3.8	(12.0)	(8.6)	淡黄褐色	長石, 石英	外面ヘラナデ
0 5 M 4	須恵器 甕	胴部	—	—	—	青灰色	長石, 石英	外面タタキ, 内面ナデ
0 5 M 5	須恵器 甕	胴部	—	—	—	緑灰色	長石, 石英	外面タタキ, 内面ナデ
0 5 M 6	須恵器 甕	胴部	—	—	—	青灰色	長石, 石英	外面タタキ後ハケ目, 内面ナデ

第4節 中・近世

中近世の遺構として、土坑2基と溝跡1条を検出した。遺構に伴うと考えられる遺物がなく、明確な時期の特定はできなかった。

1 2 P

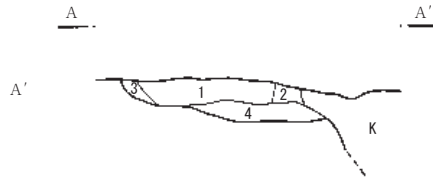
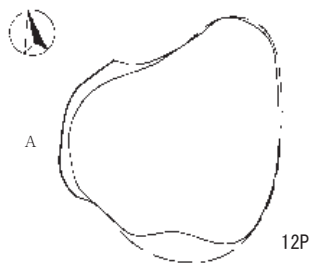
位置 調査区中央東寄り 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.9m×0.9m×0.16mの円形か。壁ゆるやかに立ち上がる。北側以外をカクランで切られる。底面 平坦である。覆土 4層に分類した。遺物 遺物の出土は見られなかった。所見 遺構の形状や覆土から近世の土坑と判断した。

1 3 P

位置 調査区中央西端 確認面 ハードローム層 規模・平面形 0.9m×0.8m×0.6m 切り合い 0.4Mに切られる。壁 ほぼ垂直に立ち上がる 底面 平坦である 覆土 4層に分類した。遺物 遺物の出土は見られなかった。所見 遺構の形状や覆土から中近世の土坑と判断した。

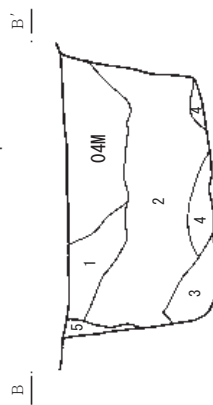
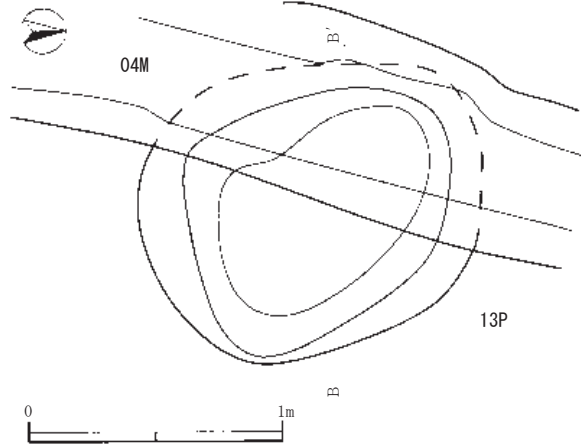
0 4 M

位置 調査区中央西端を南北方向に走る 確認面 ハードローム層 規模・平面形 7.0m×0.7m×0.35m 切り合い 1 2 Pを切る 壁 緩やかに立ち上がる。覆土 6層に分類される。遺物 奈良・平安時代の土師器・須恵器等が出土したが、流れ込みによるものと考えられる。所見 遺構の切り合い関係や覆土から近世以降の溝と判断した。



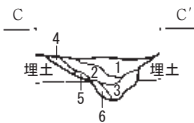
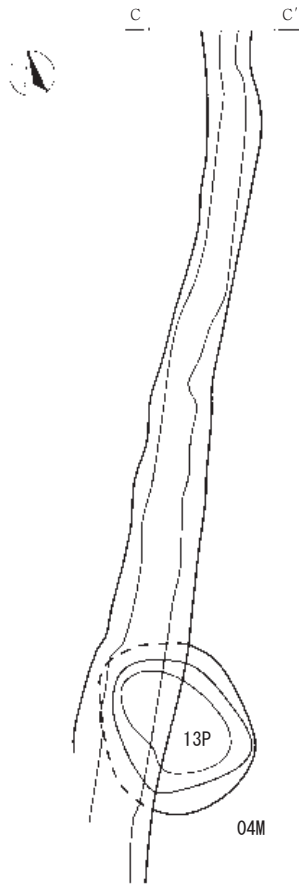
12P土層説明

- 1：暗褐色土 焼土粒含む。
粘性・しまりあり。
- 2：暗褐色土 粘性・しまりあり。
- 3：淡褐色土 焼土粒混じる。
粘性・しまりあり。
- 4：暗褐色土 ローム土に暗褐色土混じる。
粘性・しまりあり。



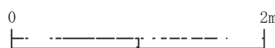
13P土層説明

- 1：暗褐色土 炭化物，焼土粒多く含む。
粘性・しまりあり。
- 2：黒褐色土 炭化物粒，焼土粒含む。
粘性・しまりあり。
- 3：褐色～黒色土 ローム土，炭化物粒，焼土粒混じる。
粘性あり。
しまりやや弱い。
- 4：淡褐色土 炭化物，焼土粒混じる。
粘性あり。
しまりやや弱い。
- 5：褐色土 ソフトローム層



04M土層説明

- 1：黒褐色土 ローム粒わずかに混じる。
粘性・しまりあり。
- 2：淡暗褐色土 粘性やや弱い。
しまりあり。
- 3：暗褐色土 ローム粒混じる。
粘性・しまりあり。
- 4：淡暗褐色土 焼土粒混じる。
粘性・しまりあり。
- 5：暗褐色土 粒子密で粘性・しまりあり。
- 6：黒褐色土 ローム粒混じる。
粘性・しまりあり。



第11図 中・近世遺構・出土遺物

0 4 M遺物観察表

	器種等	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏蓋	口辺部	2.0 (残存高)	(12.0)	—	緑灰色	長石	内外面とも横方向のヘラナデ
2	須恵器 坏	胴部～底部	2.2 (残存高)	—	(6.4)	灰白色	長石, 石英 雲母	内外面ともにヘラナデ
3	土師器 甕	底部	3.3 (残存高)	—	(7.0)	外面：淡黄褐色 内面：黒褐色	長石, 石英 雲母	内面横方向のナデ。外面縦方向のミガキ
4	土師器 甕	口縁部	2.7 (残存高)	(15.8)	—	外面：暗淡褐色 内面：淡褐色	長石, 石英	内外面ともヨコナデ

第5節 遺構外出土遺物

遺構を検出する過程において、表土中及び遺構確認面上からも遺物の出土が見られた。先に掲載した縄文土器の他、主に奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土している。遺構覆土中より出土したものと接合する破片も見られたが、細片が多いため図示はしなかった。

第3章 成果と課題

今回の調査により、縄文時代の陥穴4基、弥生時代の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代の土坑4基、溝跡4条、中近世の土坑2基、溝跡1条を検出した。

本調査区は遺跡の南西端、南側に位置する池の台遺跡と本遺跡を分ける谷津に面した緩斜面上に立地する。遺構確認面が谷を埋める深い埋土下で、カクランが広範囲かつ深い場所まで及んでいることから、削平により失われている遺構もあると考えられる。その中で、谷に沿って陥穴が所在する状況は、白幡前遺跡ではまだ知見の少ない縄文時代の様子を現す良好な資料である。また、奈良・平安時代には台地の際部分を溝により区画する状況など、これまでの成果と併せて、奈良・平安時代の土地の利用の仕方を考える上で貴重な資料となってくるであろう。

参考文献

- 八千代市史編さん委員会（1978年）『八千代市の歴史』
 (財)千葉県文化財センター（1991年）『八千代市白幡前遺跡』
 (財)千葉県文化財センター（1994年）『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡』
 八千代市教育委員会（2007年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
 八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』
 八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市白幡前遺跡 c 地点』
 八千代市教育委員会（2015年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度』
 八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市白幡前遺跡 e 地点』
 八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度』
 八千代市教育委員会（2016年）『千葉県八千代市白幡前遺跡 d 地点』
 八千代市教育委員会（2017年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』
 八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 令和元年度』
 八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市白幡前遺跡 h 地点』



調査前全景



I区全景



基本層序 (A-A')



0 1 P



0 1 M ~ 0 3 M · 0 2 P



0 1 M土層断面

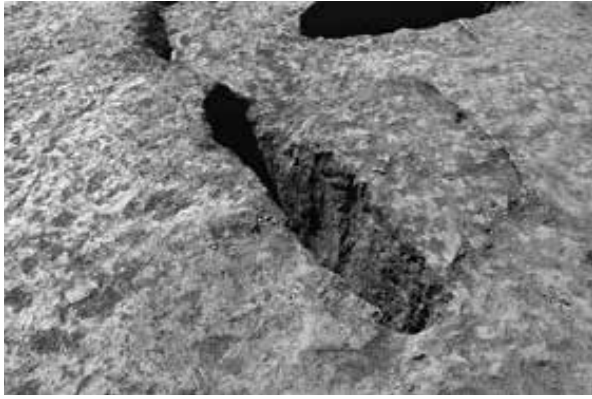


II区全景



基本層序 (B-B')

图版 2



03P



04P



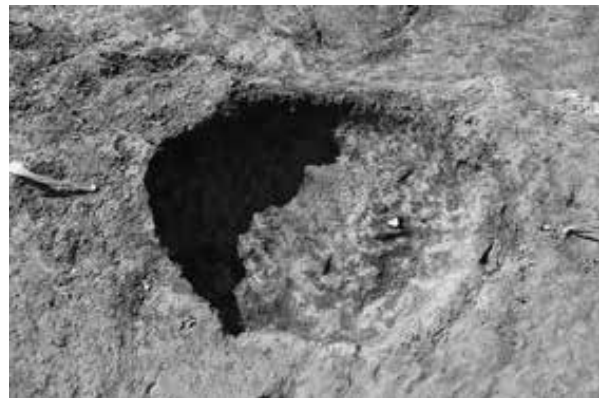
05P



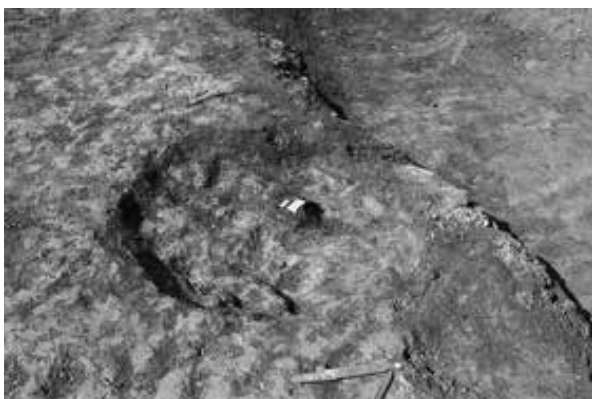
04P 土层断面



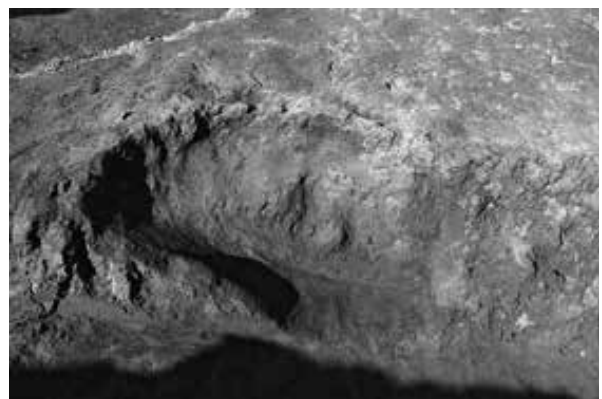
07P



06P



08P



09P



Ⅲ区全景



基本層序 (C-C')



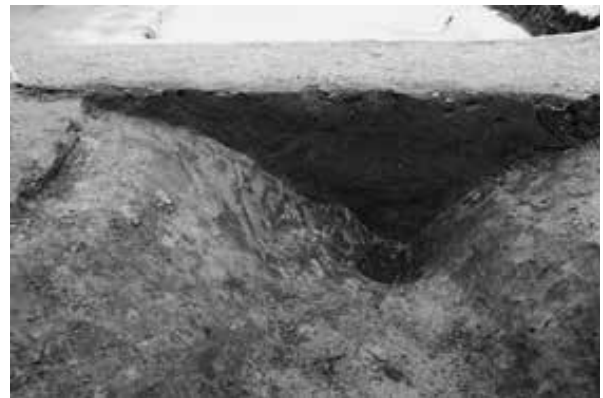
0 1 D



0 5 M



1 1 P



0 5 M 土層断面



0 4 M · 1 3 P



1 3 P 土層断面

図版 4



IV区全景



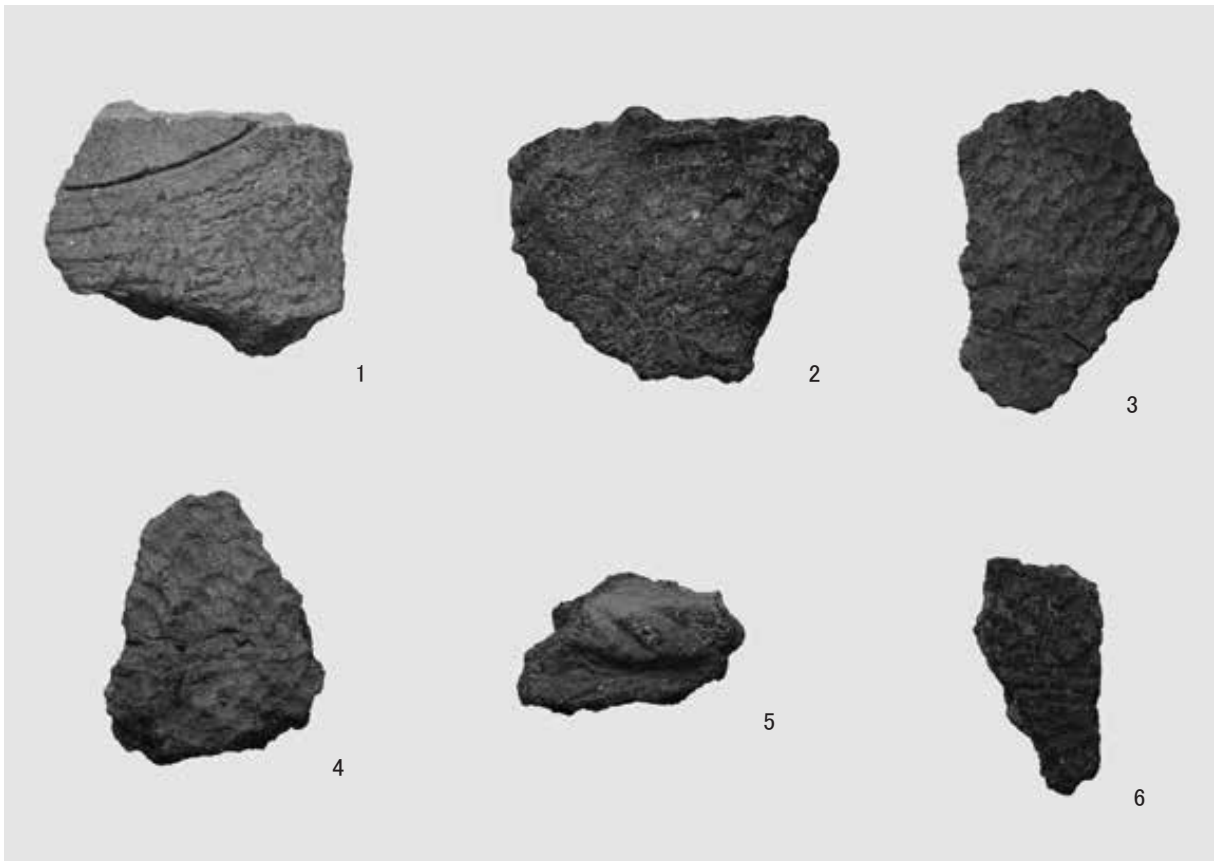
0 5 M



1 4 P



1 2 P



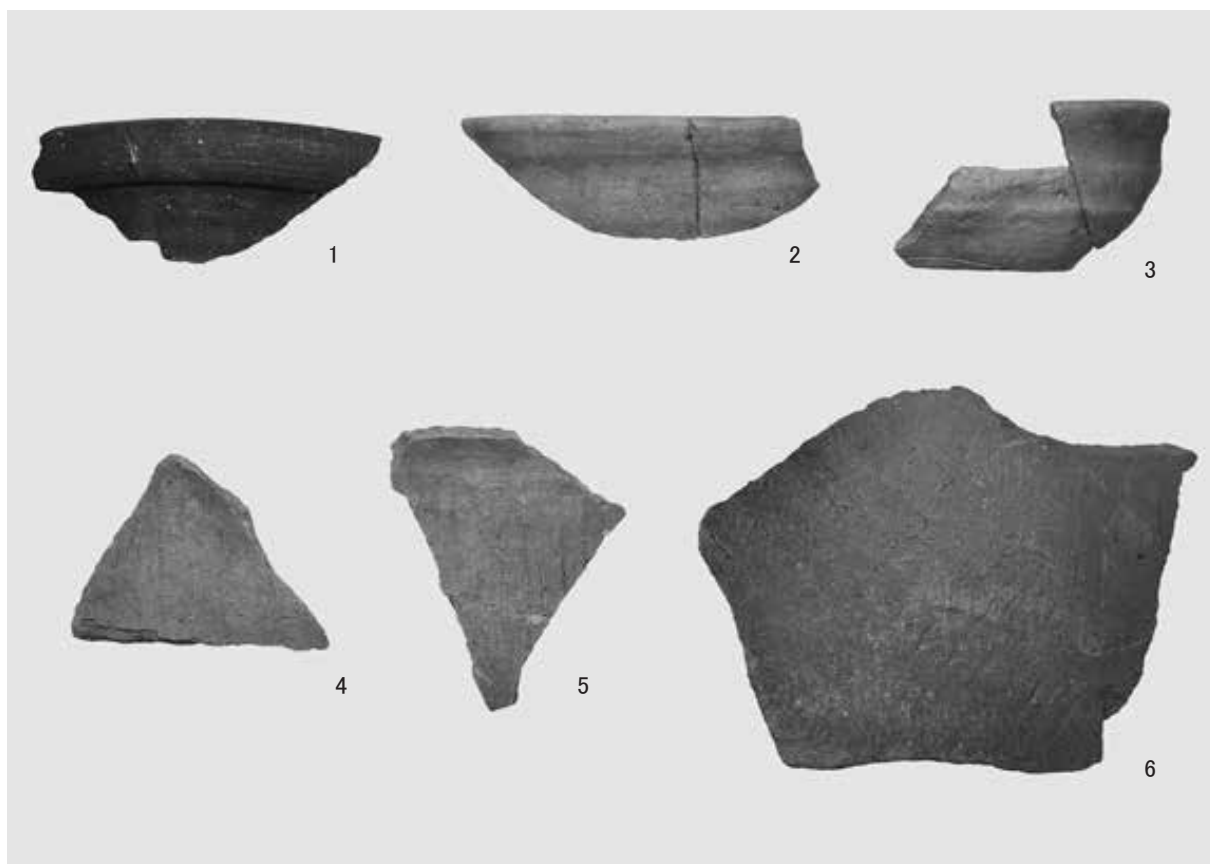
縄文時代出土遺物



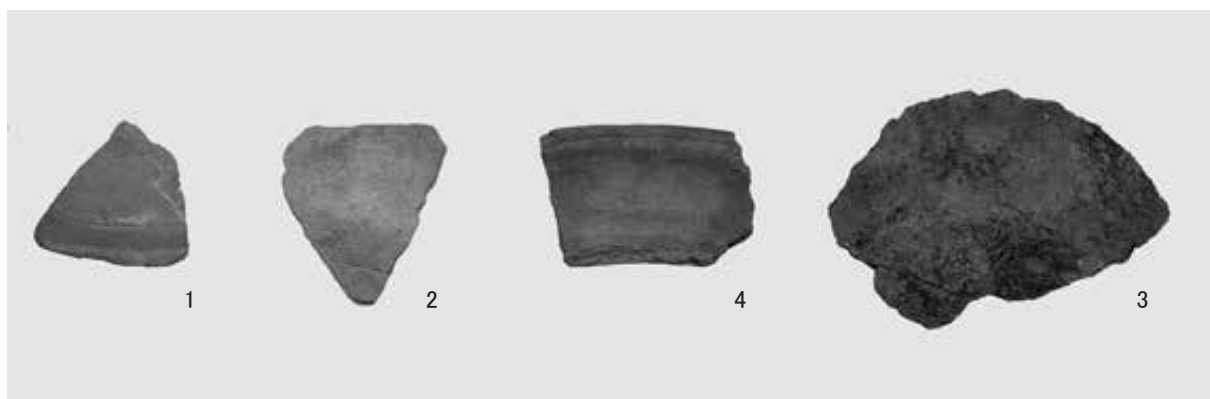
0 1 D出土遺物



0 2 M出土遺物



0 5 M出土遺物



0 4 M出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし しらはたまえいせきあいちてん							
書名	千葉県八千代市 白幡前遺跡 i 地点							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	宮下聡史							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047(483)1151代表							
発行年月日	令和5年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
しらはたまえいせき 白幡前遺跡	かやだあざいけのだい 萱田字池ノ台2243番2他	12221	185	35度 43分 28秒	140度 6分 19秒	第1次 2021.9.1～ 2021.10.28 第2次 2022.5.27～ 2022.7.29	第1次 320㎡ 第2次 296.32㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
白幡前遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器, 弥 生, 古墳, 奈良・平安	縄文時代陥穴4基, 弥生時代竪穴建物 跡1棟, 奈良・平安時代土坑7基, 溝 跡4条, 中近世土坑2基, 溝跡1条		縄文土器, 奈良・平安時代土師 器・須恵器			
要約	調査において、縄文時代の陥穴4基、弥生時代の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代の土坑7基、溝跡4条、中・近世の土坑2基、溝跡1条等を検出した。南側の谷へ向かって下がる緩斜面上に位置し、台地縁辺部における土地利用の状況が窺える。							

千葉県八千代市 白幡前遺跡 i 地点 —宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 令和5年3月31日

編集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発行 株式会社 Assure Dream

印刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1